

2. まちづくりの主要課題

以下の4つの視点から南丹市におけるまちづくりの主要課題を整理します。

視 点	内 容
現況から得られる問題・課題	・人口や産業などの現況データから得られる課題を整理
これまでの計画におけるまちづくりの課題	・合併前に策定された園部町、八木町の都市計画マスタープランにおける課題を整理
アンケート結果から得られる課題	・本計画の実施にあたって行った市民アンケート調査結果から、まちづくりに関する課題を整理
社会情勢から考慮すべき課題	・国土形成計画（平成20年7月閣議決定）を参考に、これからのまちづくりに求められる課題を整理

(1) 現況から得られる問題・課題

現 況		考えうる問題・課題
人口	・死亡数が出生数を上回る自然減により減少傾向（国勢調査）	・今後もさらに人口減少と少子高齢化が進行することが予測される
	・高齢化の進行（京都府平均に比べても高齢化率は非常に高い）	
産業	・第二次産業の従業者数、製造品出荷額等は増加傾向	・企業が立地しやすい環境の整備
	・商店数、商品販売額は減少傾向	・身近な商業サービスが不足
交通	・自動車交通量は増加傾向	・道路の安全性・利便性の向上
	・JR山陰本線の利用者は増加傾向	・JR山陰本線の完全複線化（園部以北）の促進
	・市営バス、民間バスの他、民間への委託によりコミュニティバス、スクールバスを運行	・利用者のニーズにあったバスルート、運行本数等の見直し
都市施設	・都市計画道路の改良率68.9%（うち幹線街路は54.2%）	・幹線街路の整備が進んでいない
	・都市計画公園・緑地の供用率は77.7%	・身近な公園が不足する地域がある
土地利用	・平成19年に吉富地区を市街化区域に編入	・市街化に向けた取り組みが進んでいない
	・土地区画整理事業は、内林町地区、本町地区の2箇所で開催中	・事業の円滑な推進
その他	・京都新光悦村を分譲中	・企業の誘致、小規模宅地の分譲等が進んでいない
	・日吉ダム周辺は、温泉施設などのリゾートゾーンとして整備	・地域活力の維持・向上への活用
	・美山地区のかやぶきの里は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定	・優れた景観の保全 ・地域活力の維持・向上への活用
	・平成18年1月に合併して南丹市が誕生	・合併に伴う公共公益施設の統廃合、役割分担 ・一体性の確保

(2) これまでの計画におけるまちづくりの課題

① 園部町都市計画マスタープラン（平成15年策定）

都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地での拠点にふさわしい活力のある商店街の形成や居住環境の整備 ・J R 園部駅東口での道路整備と一体となった面的整備 ・新都市機能ゾーンと位置づけられている京都縦貫自動車道園部 I C 周辺地区での開発整備 ・北部の新都市機能ゾーンと中心市街地、J R 園部駅周辺地区及び横田地区・小山東町地区等面的整備が実施された地区によって形成される市街地南部との連携 	
土地利用 市街地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化調整区域における秩序ある土地利用の展開 ・京都新光悦村の建設に伴う新駅の計画、西本梅地域の都市計画区域外での土地利用の誘導 ・京都新光悦村の建設促進、内林町土地区画整理事業、新たな市街地の開発・形成 ・中心市街地の整備改善、商業活性化、利便性や集客性、快適性のある都市空間の形成 ・J R 園部駅西口における商業施設の立地、コアゾーンの形成 ・J R 園部駅東口における駅前広場の整備、府道園部停車場線の拡幅改良に伴う面的整備 	
都市基盤・ 都市環境	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の基本計画に沿った公園緑地整備及び緑化推進
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地における良好な住宅供給の促進
	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・京都縦貫自動車道園部以北の4車線化、丹波綾部間の事業促進 ・国道・府道の未整備区間の整備促進 ・町中心部での都市計画道路の整備
	公共交通 機関	<ul style="list-style-type: none"> ・京都～園部間の複線化の促進、J R 園部駅及び周辺における交通施設のバリアフリー化の促進 ・京都新光悦村の建設に併せた新駅設置を促進 ・バス路線の路線・運行回数の確保と充実 ・通学路を中心とした歩道設置等の交通安全対策の充実
	水資源・ 上下水道 ・治水	<ul style="list-style-type: none"> ・船岡浄水場の整備、老朽施設・管路の整備 ・汚水は施設整備が完了し供用が開始された地区から家庭と下水道との接続を推進 ・下水道（雨水）施設の整備推進とともに、市街地の雨水排水対策として、天神川放水路、放流先下流河川の整備を推進

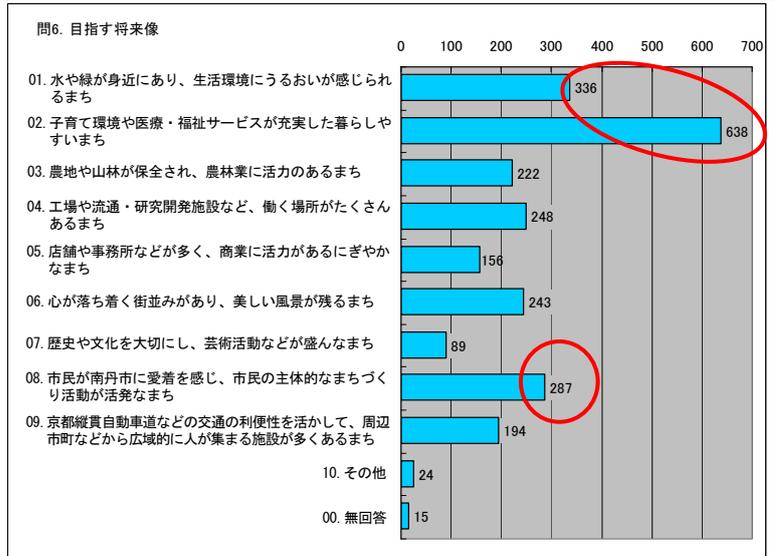
② 八木町都市計画マスタープラン（平成10年策定）

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境の中で、人びとの本当の心満たされた生活の場を提供していくこと ・若年層への魅力を高めていくこと ・訪れる人にとっても心のやすらぎを提供できる環境を整えること ・環境との調和、高齢化社会の到来、防災意識の高まり等に対し、まちづくりの中で配慮していくこと ・適正な将来人口の想定のもと、それに対応した将来の市街地規模を設定すること ・市街地部以外での地域での活力を維持・発展させていくこと ・快適な生活を提供できる都市基盤施設、生活基盤施設を整えていくこと ・広域道路交通網の整備がまちに与える影響を活用していくこと ・必要な産業基盤を整えていくこと ・「農村田園文化」を継承し、それを活かしたまちづくりを進めていくこと ・複合安定経営を目指し、農業を振興していくこと
--

(3) アンケート結果から得られる課題

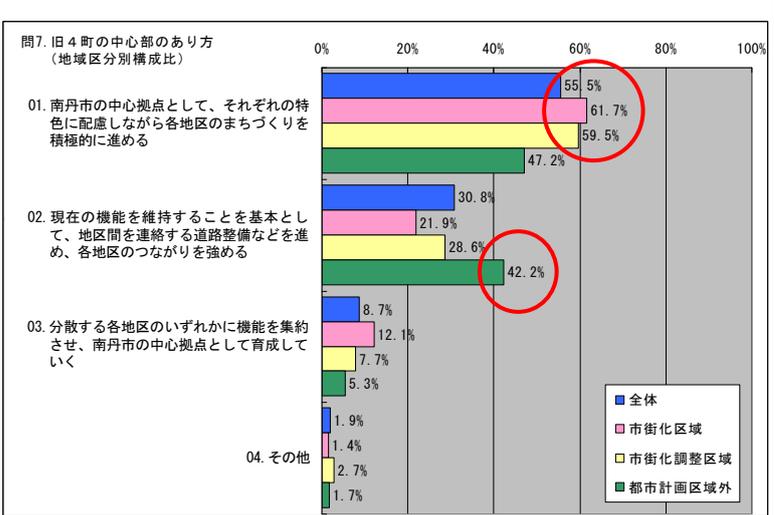
問6. 目指す将来像

- ・ソフトも含めた身近な生活環境の充実、環境や景観の保全に対する意識が高く、「暮らしやすいまち」への要望が強いことがうかがえます。
- ・また、「市民の主体的なまちづくりが活発なまち」も多いことから、「市民主役のまちづくり」に転換する意識が高いといえます。



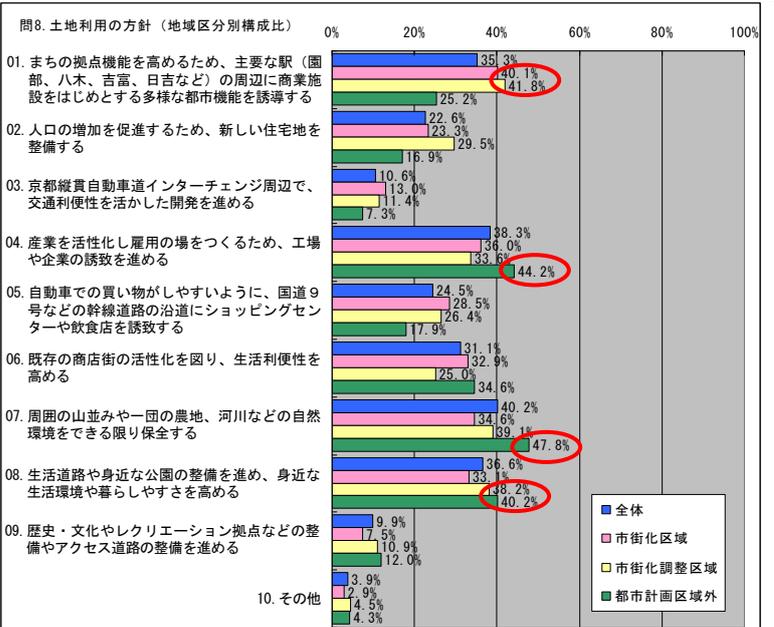
問7. 旧4町の中心部のあり方

- ・全体では「各地区のまちづくりを積極的に進める」が半数以上となっていますが、都市計画区域外では「地区間を連絡する道路整備などを進め、各地区のつながりを強める」とほぼ同程度となっています。
- ・居住地により旧中心部についての考え方が異なることがうかがえます。



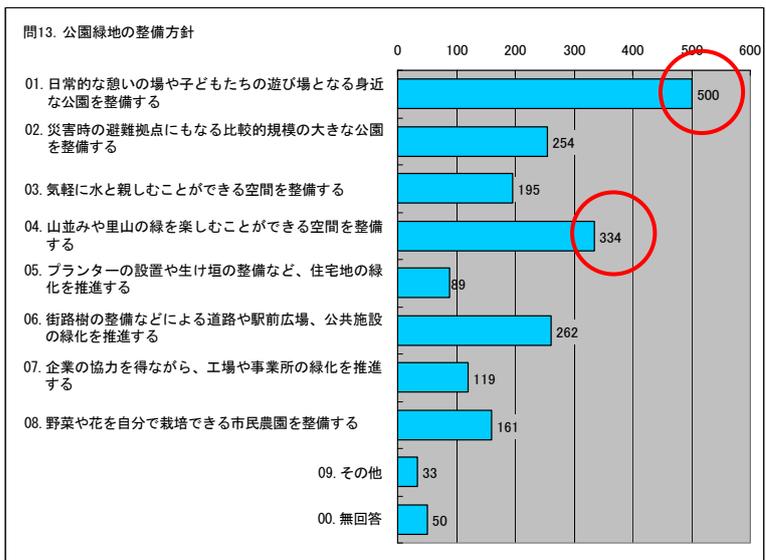
問8. 土地利用の方針

- ・「自然環境の保全」、「生活環境や暮らしやすさ」に関する意識だけでなく、「拠点機能を高めるための都市機能の誘導」、「工場や企業の誘致」などの整備、開発を伴う取り組みに対する意識も高いといえます。
- ・居住地により土地利用についての考え方が異なっており、都市計画区域外では、自然環境の保全や身近な生活環境、工場や企業の誘致についての意見が多くなっています。



問13. 公園緑地の整備方針

・「身近な公園の整備」、「山並みや里山の緑を楽しむことができる空間の整備」に関する意識が高く、「市民農園の整備」、「工場や事業所の緑化の推進」、「住宅地の緑化の推進」など、主体的な取り組みを伴う意識はやや低くなっています。

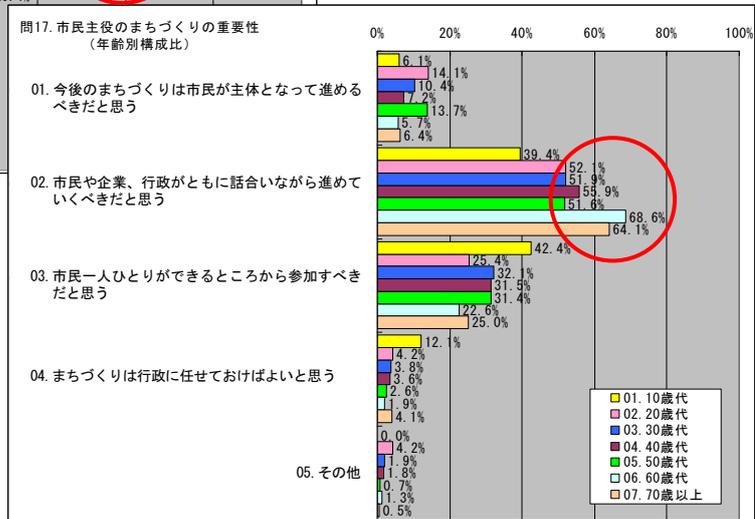
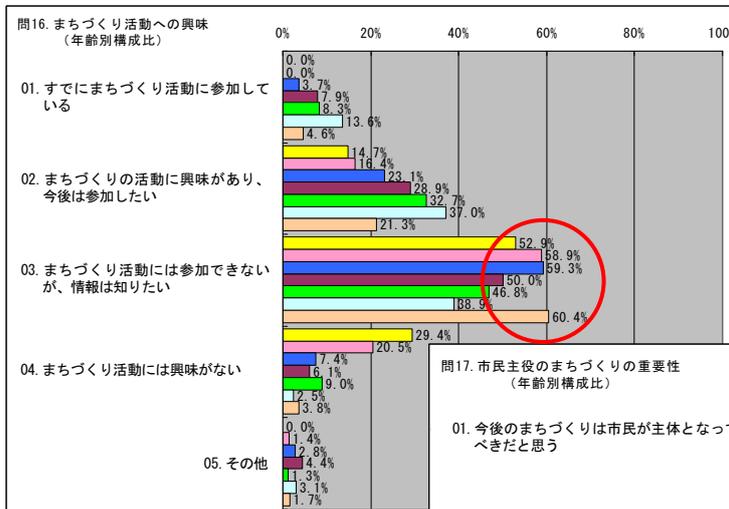


問16. まちづくり活動への興味、問17. 市民主役のまちづくりの重要性

・まちづくり活動への興味については、60歳代までは年代が高くなるに従って「興味があり、今後は参加したい」という意識が強くなる傾向にあります。

・市民主役のまちづくりの重要性についても、「まちづくりは行政に任せておけばよい」はごく少数に留まっており、住民参加の必要性に関する意識は中高年層を中心に高いといえます。

・今後は、こうした意識を若年層にも広げて、市民全体の意識として高めていくことが重要と考えられます。



(4) 社会情勢から考慮すべき課題

時代の潮流	これからのまちづくりに求められる視点
①持続可能な地域の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集約型都市構造への転換 ・ 既成市街地の再構築 ・ 地域雇用に密接する産業の活性化 ・ 美しく暮らしやすい農山村の形成及び中山間地の役割の再認識 ・ 地域間の交流・連携や人の誘致・移動（二地域居住、外部人材の活用） ・ 条件の厳しい地域への対応
②災害に強いしなやかな国土の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハード・ソフト一体となった取り組み等減災の観点重視 ・ 災害に強い土地利用への誘導 ・ 交通・通信網等の迂回ルート等の余裕性 ・ 避難誘導体制の充実など地域防災力の強化
③美しい国土の管理と継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と自然が調和した循環と共生の重視 ・ 健全な生態系の維持・形成 ・ 個性豊かな地域文化の継承と創造 ・ 土地の地域経営の取り組み（エリアマネジメントの視点）
④「新たな公」を基軸とする地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地縁型コミュニティ、NPO、企業、行政等の協働による居住環境整備等 ・ 地域の発意・活動による地域資源の発掘・活用等 ・ 維持・存続が危ぶまれる集落への目配りと暮らしの将来像の合意形成 ・ エリアマネジメントの促進

(5) まちづくりの主要課題

南丹市は、京都府のほぼ中央に位置し、大半を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を桂川が流れる恵まれた自然環境を有しており、これまで、山林・河川・田園風景などの自然資源や交通環境のほか、付加価値の高い農業、高度医療の環境、多くの高等教育機関の立地する学生のまち、特徴のある観光資源などを活かして、まちの活力向上に努めてきました。

今後は、大きく変革する社会情勢を的確に捉えつつ、市民が誇りと愛着を持って生活できるまちを計画的に整備していくことが重要です。恵まれた自然環境や歴史・文化資源を最大限に活かし、市民と行政が互いに協力しながら、『森・里・街がきらめくふるさと南丹市』を実現していくためのまちづくりの主要課題を整理すると以下のようになります。

① まちの成長を支える計画的なまちづくりを進める必要がある

今後の人口減少時代においては、地域の資源を活かした広域的な交流や連携、人の誘致・移動などにより総合力を高めていく必要があります。

このため、土地利用や道路整備のあり方など、南丹市の活力を高める都市整備を計画的に推進するとともに、商業・業務、教育、医療・福祉などの多様な都市の機能を適切に誘導・強化を図るなど、戦略的・効果的にまちづくりを進めていく必要があります。

② 連携・交流型のまちづくりを進める必要がある

南丹市は4つの町が合併したまちであり、府内では京都市に次ぐ広大な面積を有しています。

このため、生活空間としての一体性の確保を図るとともに、それぞれが持つ貴重な資源を活かしつつ、地域間の連携・交流により相乗効果を生み出していくことも大切です。

旧町それぞれの地域資源を活かしつつ、地区間を連絡する道路整備などにより、連携・交流型のまちづくりを進める必要があります。

③ 暮らしやすさを実感できる生活満足度の高いまちづくりを進める必要がある

今後も人口減少と少子高齢化の進行が予想される中、地域の活力を維持していくためには、誰もが安心して住み続けることのできる環境づくりが必要です。

多様化・複雑化する市民の価値観や生活スタイルにあった質の高い生活環境の整備・再編を進め、誰もが住みたい、住み続けたいと思える、住みよい環境を次世代に継承していく必要があります。

④ 身近な自然環境や歴史・文化資源、優れた景観などを活かしたまちづくりを進める必要がある

南丹市は、市街地を縁取る山々をはじめ、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されているかやぶき民家群、一級河川桂川や由良川などの河川景観、豊かな田園風景が四季折々の美しい景観を呈しています。これらの豊かな自然環境や歴史・文化資源、優れた景観などを単に保全・継承するだけでなく、まちづくりに積極的に活用していく必要があります。

⑤ 市民が主役となるまちづくりを進める必要がある

今後のまちづくりにおいては、これまでの行政主導のまちづくりから転換した市民主役のまちづくりをより一層積極的に進めていくことが求められているため、市民があらゆる機会を通じてまちづくりに取り組むことができる環境や仕組みを整える必要があります。